

神保原駅北まちづくり町民ワークショップ

報告書

令和4年8月

上里町 まちづくり推進課

目次

1.	神保原駅北まちづくり町民ワークショップについて	1
	(1) 町民ワークショップ開催の目的	1
	(2) 各会の開催概要	1
2.	第1回町民ワークショップの結果	2
	(1) 開催概要	2
	(2) 結果概要	2
	(3) 各班の発表内容	3
3.	第2回町民ワークショップの結果	8
	(1) 開催概要	8
	(2) 結果概要	8
	(3) 各班の発表内容	9
4.	第3回町民ワークショップの結果	14
	(1) 開催概要	14
	(2) 結果概要	14
	(3) 各班の発表内容	15

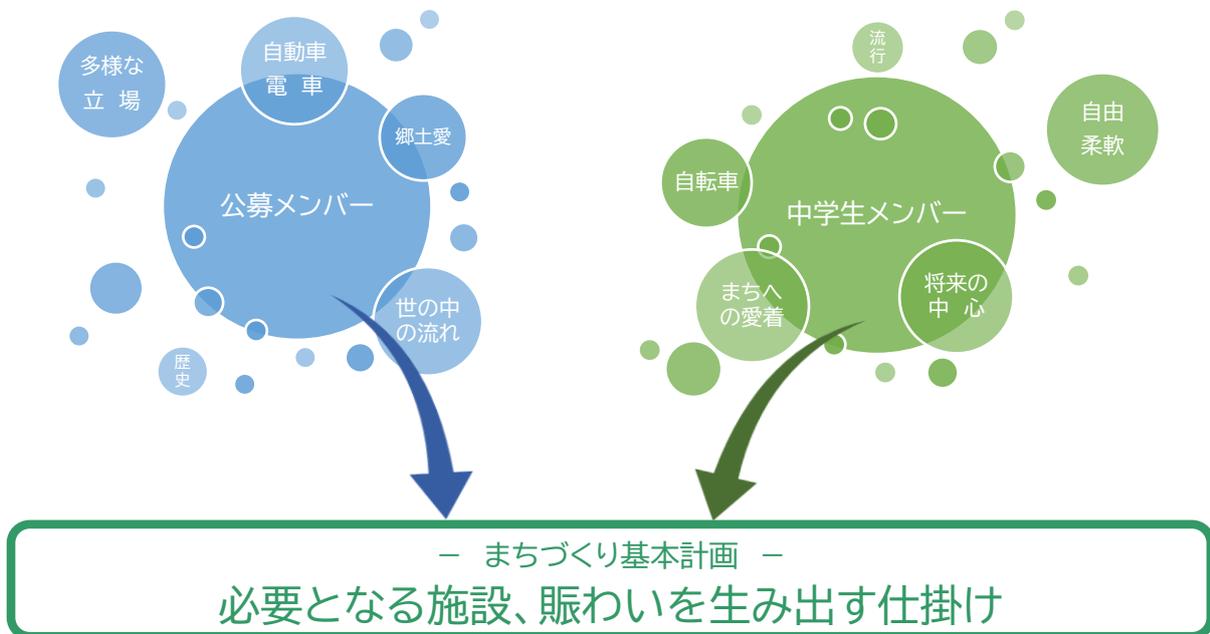
1.神保原駅北まちづくり町民ワークショップについて

(1) 町民ワークショップ開催の目的

上里町では、神保原駅周辺を町の中心拠点として位置づけ、「町の中心地としての賑わいの創出」や「ゆとりある住宅地の形成」を目標に、将来にわたって住み続けられる「コンパクトで持続可能なまち」の実現に向けて、『神保原駅北まちづくり』を推進しています。

町民ワークショップでは、「神保原駅北まちづくり基本構想」により必要となる施設の検討や、賑わいを生み出す仕掛けづくりなどについて、参加者の皆様からご意見やアイデアを幅広く伺い、神保原駅北の将来の姿を一緒に考えました。

当日は、公募メンバーのほか、柔軟な発想を持ち、将来まちの中心となる中学生メンバーにも参加していただき、貴重な意見の取りこぼしが起きないように、実施しました。



(2) 開催概要

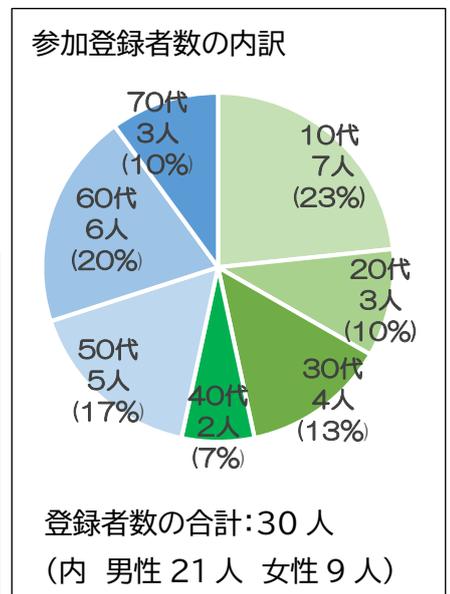
開催日 令和4年4月10日(日)／5月15日(日)／5月29日(日)

時間 午前10時～12時(回によって適宜時間を変更して実施。)

会場 神保原駅周辺、上里町役場 4F 大会議室

内容

	テーマ	内容
第1回	『駅北を歩こう!』	現地を歩き、今の駅北を確認する。そのうえで、「良い所」、「気になる所」について共有する。
第2回	『駅北を話そう!』	駅北でどのように過ごし、どのように暮らしたいか話し合う。
第3回	『駅北を描こう!』	第2回で話し合った結果をもとに、まち全体のあるべき姿や、「今からでもできること」について話し合う。



2.第1回町民ワークショップの結果

(1)開催概要

日 時：2022年4月10日(日) 9:00~12:00

場 所：神保原駅周辺、上里町役場会議室

出席者：24名(4つのグループに分かれてグループワーク)

テーマ：駅北を歩こう！

現地を歩き、今の駅北を確認する。そのうえで、「良い所」、「気になる所」について共有しました。

内容

1. 現地を歩き、駅北の今を確認する

駅北の現状を知るために、1時間程度、現地調査を行いました。

事務局より現地について説明しながら、「良い所」「気になる所」について、各自で探しました。

2. 駅北の「良い所」「気になる所」について共有する

上里町の庁舎に戻り、4班に分かれて各自「良い所」「気になる所」について、地図を見ながら共有しました。

3. 班ごとに発表し、総まとめ

各班で「良い所」「気になる所」「両方に該当する所」の意見を出し合い、共有しました。

(2)結果概要

全体を通して「良い所」より、「気になる所」が多く挙げられる傾向にありました。

「駅が近く、利便性が高い」「駅の近くにしては、お寺や御陣場川などの緑・水資源が多い」など、利便性が高いなかでも多くの貴重な資源が残っていることが挙げられました。また、「かつて製糸工場があったことや、誇れる歴史がある」など、地域の歴史に対する再発見もありました。古い家が残っており、レトロなまちの雰囲気をおもむまちの人も多くいました。

神保原停車場線や、神保原停車場線と旧中山道とのクランク部分の安全性に対して、意見が集中しました。また、駅周辺の利便性が高いというものの、「駅南北の行き来が不便、バリアフリー化がされていない」「周辺設備の老朽化」「バス利用のしにくさ」が挙げられました。

その他、「人が楽しく、集まることができる場所がない」「散歩や出かける所がない」などの意見や、「病院やクリニックをつくってほしい」といった意見もありました。

4) D班

旧中山通沿道のクラックは、事故が起きることが多い状況との意見が挙がりました。まちなかに狭い道や危険な道路が多く、歩道の整備がされていないことや、道が凸凹になっており車が通行する際も危険であるとの意見が挙がりました。信号を増やし、歩きやすく広い道路整備が必要なのではないかという意見も挙げられました。

上里町は、神保原駅の他に高速道路などもあるため、交通網が便利であることや、保育園や幼稚園が多く、総じて子育てには便利な環境であることがわかりました。

御陣場川周辺は、木や花が多くあり自然豊かである。御陣場川の水を活用することにより、夏場でも涼しく過ごせる場所をつくるのではないかと意見が挙げられました。

上里町にはトロッコや蔵、神社、養蚕など伝統的なものも多くものの、駅以外に来る目的がないことから、伝統的なものやトロッコ跡地などのあったものがあまり知られていない状況です。

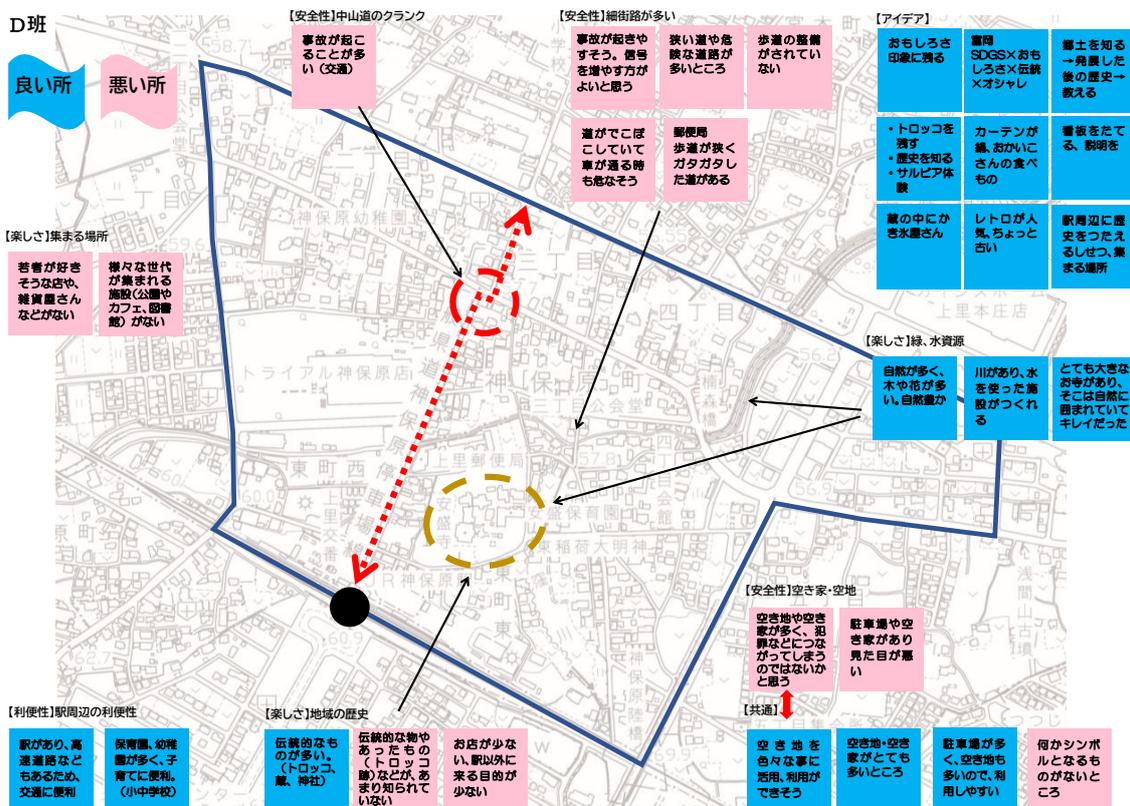
お寺や神社があるため、それらを活かした施設をつくることで、まちを知るきっかけになるとの意見や、町内外の方に養蚕で発展してきた歴史や、西崎キクさんを紹介する看板を設置することで情報発信できるのではないかと意見が挙げられました。お寺や神社周辺は自然に囲まれているため、上手く活用すれば、美しい公園をつくれるのではないかと意見も挙げられました。

駐車場や空き家、空き地が多くあり見た目が悪いことや、犯罪などに繋がってしまうのではないかと、不安視する声が挙げられました。

解決策として、様々な世代の方々が楽しめる「伝統×おしゃれ×おもしろい」を掛け合わせた施設や、富岡製糸場など本庄(蔵)を利用した雑貨屋やかき氷屋さんのような、古いけど何かおしゃれや面白い商売ができればいいのではないかと意見が挙げられました。また面白くするためには、トロッコ体験や養蚕を知ることができる施設をつくるのがいいのではないかと意見も挙げられました。



D班の様子



5) E 班 ※5/15(日)に実施

神保原停車場線沿道は道路が狭く、小道と車が分離できていないので危険であり、特に、送迎の時間帯は車が混み、歩行者や自転車の通行が危険であるとの意見が挙がりました。

現在、駅の利用者は限定されているものの、交通拠点として町に駅が立地していることは大きなメリットである。との意見が挙がりました。

商店街は空店舗が多く閑散としており、休める場所が少ない上、寄りたくなるようなお店も少なく、子供のためになっていないという意見が挙げられました。

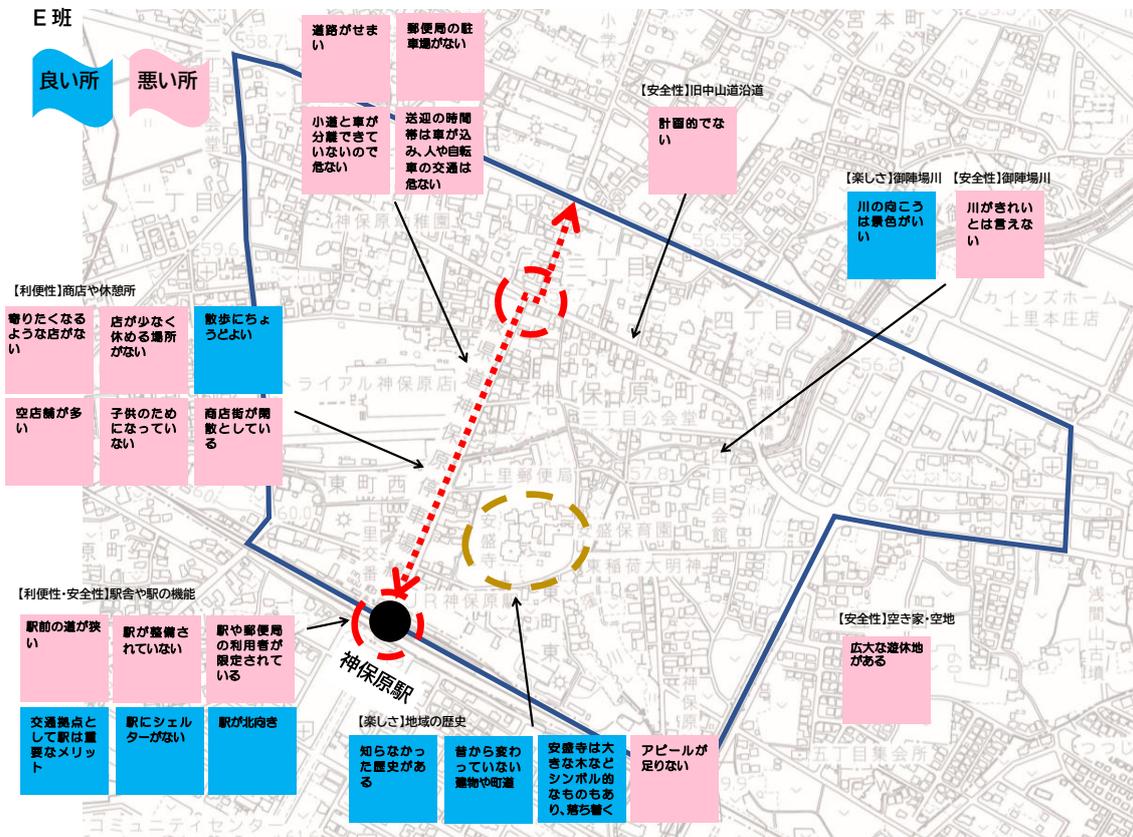
散歩にはちょうどよい空間であるため、広大な遊休地などを有効的に活用して必要があるとの意見が挙がりました。

御陣場川では川からの景色は良いが、川自体がきれいとは言えないという意見が挙げられました。

駅北には昔から変わっていない建物があり、多くの歴史が残されています。安盛寺には大きな木などシンボルのようなものもあり、落ち着いた空間です。しかし、神保原の歴史を知らない町民の方もおり、アピールしていく必要があるとの意見が挙がりました。



E 班の様子



3.第2回町民ワークショップの結果

(1)開催概要

日 時：2022年5月15日(日) 10:00~12:00

場 所：上里町役場会議室

出席者：26名(5つのグループに分かれてグループワーク)

テーマ：駅北を話そう！

駅北でどのように過ごし、どのように暮らしたいか話し合いました。

内容

1. 目的から、空間のイメージを膨らませる

駅北の将来像である『賑わいとゆとりを感じ 歩いて楽しむ「まちなか」~ひと・まち・駅をつなぐまちづくり~をもとに、どのような場所としていくのか考えました。

2. 使う人のことを考え、しかけを考える

誰のために、どんなしかけが必要であるのかをハード面とソフト面の両方で具体的に考えました。

3. まちづくりのテーマを考える(自由に！)

内容の1と2をひとことでまとめました。

(2)結果概要

前提として、駅前での「賑わいづくり」は必須条件であることが、共通認識として挙がりました。そのためには、目的地をつくり、歩かせ、回遊させることが必要であることがわかりました。

まずは今住んでいる人や、上里町民をターゲットに、満足してもらうことが必要であり、賑わいづくり(ワークショップなど、趣味・特技を活かせるような活躍できる場の創出)や安全確保(歩道整備やクランクの解消)を進めていき、結果として、町外からの人口流入や来訪者の増加につなげていく方策を取っていく必要があるとの意見が挙がりました。

また、まちなかの緑・水資源(安盛寺・御陣場川)や、誇れる歴史(製糸工場)など、まちの良い所を最大限に生かしていきたいとの意見が挙がりました。例として、絹織物などの小物をテーマにしたイベントの開催や、水辺空間をきれいにし、楽しめる空間の創出などが挙げられました。

(3) 各班の発表内容

1) A 班

「まち全体が公園として楽しめる街」をまちづくりのテーマと設定しました。

様々な世代の地域住民の方や高齢者の方を対象に、免許返納を見据えて歩いて暮らせるようなまち、休日に遊びに行けるまちと位置づけました。

公園と併設されたファミレスや小さいテナントなどの設置や、野菜市や野外ライブなどのイベントを開催することにより、人の集積を図る仕掛けが必要との意見が挙がりました。

また、緑豊かな散歩道を整備や、道路は広くせずに、自動車の速度抑制のための仕掛けづくりをすることで、自然を感じることができるだけでなく、安全性にも配慮できるような空間づくりが挙げられました。

その他にも、高齢者向けの訪問医療やタクシーなどにより、自ら運転しなくても過ごしやすい環境が必要であるとの意見が挙がりました。



A 班の様子

A 班

まちづくりのテーマ

まち全体が公園として楽しめる街

誰を対象に？

- 様々な世代の、町内に住んでいる人
- 高齢者の方
(免許返納を見据え、歩いて暮らせるような仕掛け)

どんな仕掛けが必要？

- 公園と併設されたファミレス
- 小さいテナントなどが多数
- 緑豊かな散歩道
- イベントの開催(野菜市、小麦、屋外ライブ)
- 道路は広くせず、ゆっくりできる道に
- 高齢者向けの訪問医療、タクシー等



2) B 班

「今住む町民が住みやすく、伝統を継承し、町外の人にも興味を持てる街」をまちづくりのテーマとして設定しました。

まちの魅力が高まれば来訪者も増えると考えられるため、まずは町内の人や、現在駅周辺に住んでいる人を対象とすることにしました。活気づくりという観点では、学生を中心とする。子供から大人まで楽しめる場として位置づけました。

年齢関係なく、楽しめる公園を設置することで、普段交流することのない人と関わることができ、周辺環境のにぎわいに繋げることができるとの意見が挙がりました。

また、町外からの来訪者も見据え、歴史を伝承できる資料館や、農産物を活用した商店の誘導、周辺環境に配慮した緑のある空間や景観を整えるなどの仕掛けづくりを行うことにより、人の集積だけでなく、自然豊かな空間も創出できるとの意見が挙がりました。

その他にも、安全性の向上のため、自動車進入禁止など仕掛けづくりが意見として挙げられました。



B 班の様子

B 班

まちづくりのテーマ

今住む町民が住みやすく、過去を伝承し、町外の人にも興味を持てる街

誰を対象に？

- 現在駅周辺に住んでいる人
- 町内に住んでいる人
- 魅力が高まれば、来訪者も増える
- 活気づくりという観点では、学生
- 子供から大人までの全世代の方

どんな仕掛けが必要？

- 年齢に関係なく、楽しめる公園
- 歴史を伝承できる資料館
- 農産物を活用した商店
- 緑のある空間、景観を整える
- 自動車進入禁止



3) C 班

「毎日行きたい、生活の一部となる場所『こむぎっちプラザ』」をまちづくりのテーマとしました。

家族や身の回りの人だけでなく、駅南側の人や町外の人も対象に、人がぼったり会えるまちとして位置づけました。

喫茶店などの商いが成立するようにするため、上里町にしかないような場所やイベントができるような場所を生み出し、人を集客させることや、駅の南北を行き来しやすくし、アクセスを広げることで、交流の幅も広げるための仕掛けづくりが考えられました。



C 班の様子

C 班

まちづくりのテーマ

毎日行きたい、生活の一部となる場所 『こむぎっちプラザ』

誰を対象に？

- 家族
- 駅の南側に住んでいる人
- 町外から訪れる人
- 町内に住んでいる人

どんな仕掛けが必要？

- 喫茶店などの商いが成立するような場所
- 上里町にしかない場所
- イベントができるような場所
- 駅の南北の行き来をしやすくする



4) D 班

「自然を感じ、子供から大人まで、誰もがくつろげるまち」をまちづくりのテーマと設定しました。

対象者は、町内に住んでいる人や、駅を毎日利用している人だけでなく、町外から訪れる人も含めて検討を進めました。また、お年寄りの方や体の不自由な方に優しいまちにしたいとの意見が挙がりました。

カフェと図書館が融合したような場所や、地域の人と交流やワークショップができる場所、歴史を生かした商店などの仕掛けづくりにより、町外からの集客が見込まれるとの意見が挙がりました。

また、若者向けの商業施設や小規模スーパー、コンビニエンスストアなどの設置は、町内の人に限らず駅の利用者や学生、社会人にも多く活用されるとの意見が挙がりました。

樹木や花が楽しめる公園や川遊びができるような場所があれば、自然を感じることができ、小さい子供でものびのび過ごせる空間になることや、広場や駅を改善しバリアフリー化にすることで、お年寄りの方や体の不自由な方にとって使いやすくなり、利用頻度も上がるとの意見が挙がりました。



D 班の様子

D 班 まちづくりのテーマ

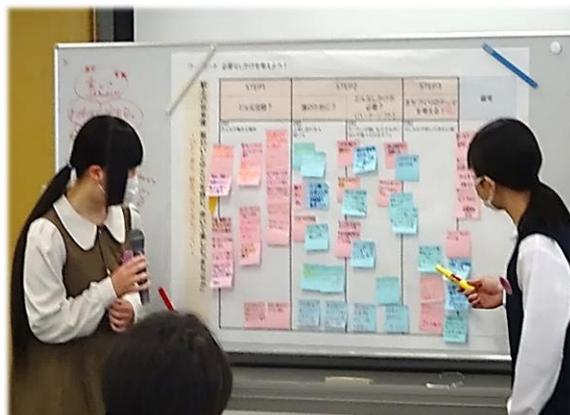
自然を感じ、子供から大人まで 誰もがくつろげるまち

誰を対象に？

- 町に住んでいる人
- 他の地域や他の県から訪れる人
- 町外から訪れる若者
- 親子、大人、学生
- 子育て家族(親子)
- 駅を毎日利用している学生・社会人
- 高齢者の方や、体の不自由な方

どんな仕掛けが必要？

- カフェと図書館が融合したような場所
- 地域の人と交流やワークショップができる場所
- 若者向けの商業施設
- 樹木や花が楽しめる公園や川遊びができる場所
- 日常利用できる場所(スーパーやコンビニ)
- 歴史を生かしたカフェ等
- バリアフリー化(広場や駅の改善等)



5) E 班

「みんなが利用したくなる、歩きたくなる場所～ゆったり・のんびり、わくわく、安全安心～」をまちづくりのテーマとしました。

メインターゲットを上里町民や駅周辺居住者と設定し、小さい子供から学生、高齢者と、幅広い年代の方を対象としました。また、交通弱者や障がい者に親切なまちになると良いとの意見が挙がりました。

賑わいづくりに向けて、おまつりや行事、ゲームやスタンプラリー、キッチンカーやフリーマーケットなど、まちの人たちが団結してイベントを開催する機会が必要であるとの意見や、手芸やワークショップなど、特技を活かし交流できるはにぼんプラザのような施設があると、さらに交流の場が増えるとの意見が挙げられました。

また、高齢者の方向けに健康増進器具や自然を楽しむための公園の設置することで、外に出向くきっかけを生み出すとの意見が挙がりました。

加えて、街灯設置や歩車道を広くとるなどの整備を行うことにより、安心・安全にも繋がるとの意見が挙がりました。



E 班の様子

E 班 まちづくりのテーマ

みんなが利用したくなる、歩きたくなる場所
～ゆったり・のんびり、わくわく、安全安心～

誰を対象に？

- 町内に住んでいる人
- 駅周辺に住んでいる人
- 歩行者
- 若い人たち
- 幼い子供や、学生、高齢者の方
- 交通弱者や障がいのある方

どんなしかけが必要？

- おまつりや行事、ゲームやスタンプラリー、キッチンカーやフリーマーケット等
- 手芸やワークショップなど、特技を生かせる場所
→交流できる施設(例:はにぼんプラザ)
- 健康増進器具や、自然を楽しむための公園
- 健康増進のためのアプリ
- 街灯設置、歩車道を広くとる等、安全安心の取組み



4.第3回町民ワークショップの結果

(1)開催概要

日 時：2022年5月29日(日) 10:00~12:00

場 所：上里町役場会議室

出席者：26名(5つのグループに分かれてグループワーク)

テーマ：駅北を描こう！

第2回で話し合った結果をもとに、まち全体のあるべき姿や、「今からでもできること」について話し合いました。

内容

1. 前回考えたテーマ・対象者・しかけについて、各班でおさらいする

2. どの場所にあったら良いか、考える

【ポイント】 テーマ:歩きたくなるまちづくり

対象者:まずは、町民・駅周辺居住者をターゲットにする

しかけ:まちの良い所を活かしていく

3. やりたいこと・できそうなことについて考える

駅北の将来像の実現に向け、班ごとにまちづくりのテーマや、賑わいやゆとりを感じることができる魅力あるまちづくりに必要な「しかけ」、今からできそうなことなどについて検討しました。

各班の意見の取りまとめは、ワークシートや図面に付箋を貼って整理しました。

(2)結果概要

駅周辺に住んでいる人や上里町民をターゲットに、賑わいの創出に向けて、歩いて楽しめるまちづくりが必要と、共通した意見が挙げられました。

大型商業施設跡地等に目的地となる場所をつくり、まちなかの緑・水資源や製糸工場などの誇れる歴史を活かしたまちづくりを行い、マルシェやお祭りなどのイベント開催によるソフトの取り組みも検討するべきであるとの意見が挙がりました。

【まちづくりのテーマ】

・賑わい創出に向けて、歩いて楽しめるまちづくりが必要

【誰を対象に？】

・駅周辺に住んでいる人や、上里町民をターゲットに、満足してもらうことが必要

【どんなしかけが必要？】

・まちの良い所(まちなかの緑・水資源や製糸工場などの誇れる歴史)を活かしたまちづくりが必要

【しかけの場所は？】

・大型商業施設跡地等に目的地となる場所をつくり、賑わいを創出することが必要

【今からでも何ができそう？】

・マルシェやお祭りなどのイベントの開催によるソフトの取り組みを検討

(3) 各班の発表内容

1) A 班

「まち全体が公園として楽しめる街」としてまちづくりのテーマを設定しました。

まち全体を「公園」として捉え、楽しめるような循環を生み出すためのしかけとして、お店や緑地を分散させて配置することや、さらなる好循環を生み出すため、イベントや写真展の実施などの仕掛けづくりが必要との意見が挙げられました。

大型商業施設跡地を公園や病院、学童クラブや塾などに有効活用することにより、町内の人が行き交う空間が創出できるとの意見が挙げられました。

また、イベントの開催により、町外の人々の集客にもつなげることができるとの意見が挙げられました。

まちを公園として楽しめるように、河川沿岸を活用した桜・ツツジの植栽や、街路樹に桑の木を植栽することで、安盛寺との一体的な活用や、まちの良い所である歴史を活かすことができるとの意見が挙がりました。

また、織物体験ができる場所を停車場線沿道につくることで、まちの良い所である歴史の活用促進につながるとの意見が挙がりました。

また、空き家を活用し、スモールオフィスや地域コミュニティについて意見が聞ける場所、地域毎の風景などの写真展示ができるような施設を分散配置することで、好循環を生み出すことができ、上里町を知ることができるとの意見が挙がりました。



A 班の様子

A 班

まちづくりのテーマ

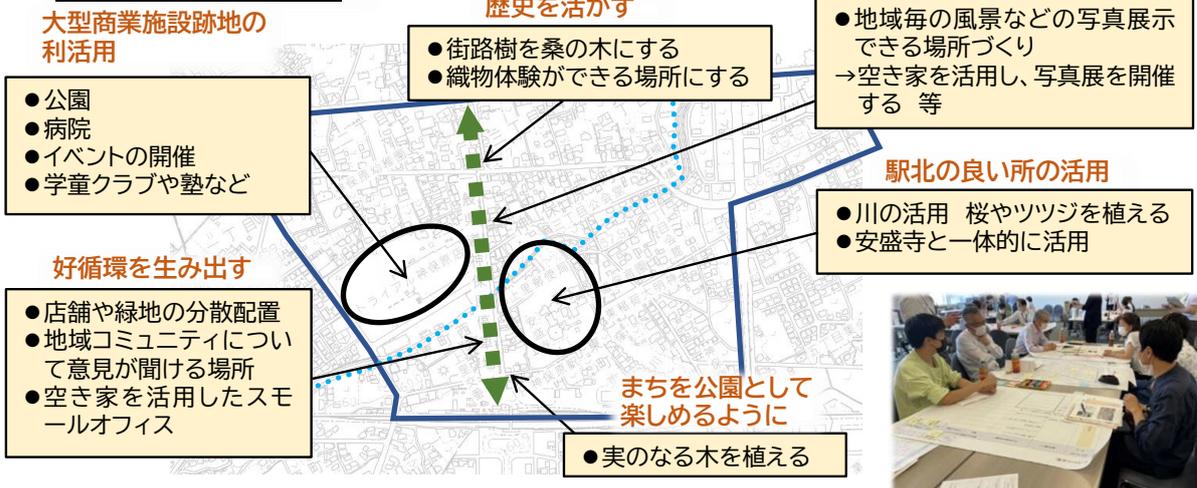
まち全体が公園として楽しめる街

まち全体を「公園」と捉え、楽しめるような循環を生み出すためのしかけとして、お店や緑地を分散させて配置し、さらなる好循環を生み出すため、イベントや写真展の実施を提案しました。

誰を対象に？

- ◆様々な世代の町内に住んでいる人
- ◆高齢者の方

どんな仕掛けが必要？



2) B 班

「今住む町民が住みやすく、過去を伝承し、町外の人にも興味を持てる街」としてまちづくりのテーマを設定しました。

町民の方々に満足していただくためには「まちの魅力を知ってもらう」ことが必要と考え、今あるお店や歴史を知ってもらうためのしかけとして、マルシェやイベントを実施したいとの意見が挙がりました。

また、「まちの魅力を増やす」ことも必要と考え、公園・緑地の整備などの意見が挙がりました。

公園を設置し、親水広場とリンクさせることや、空き家や駅前駐車場を有効活用し、地域の歴史やお店をテーマにマルシェやイベントを開催することでにぎわいを取り戻すことができるとの意見が挙がりました。

また、今ある商店を活かし、食べ歩きなどを行うことで、歩きながらまちの良さを感じられるとの意見が挙がりました。



B 班の様子

B 班

まちづくりのテーマ

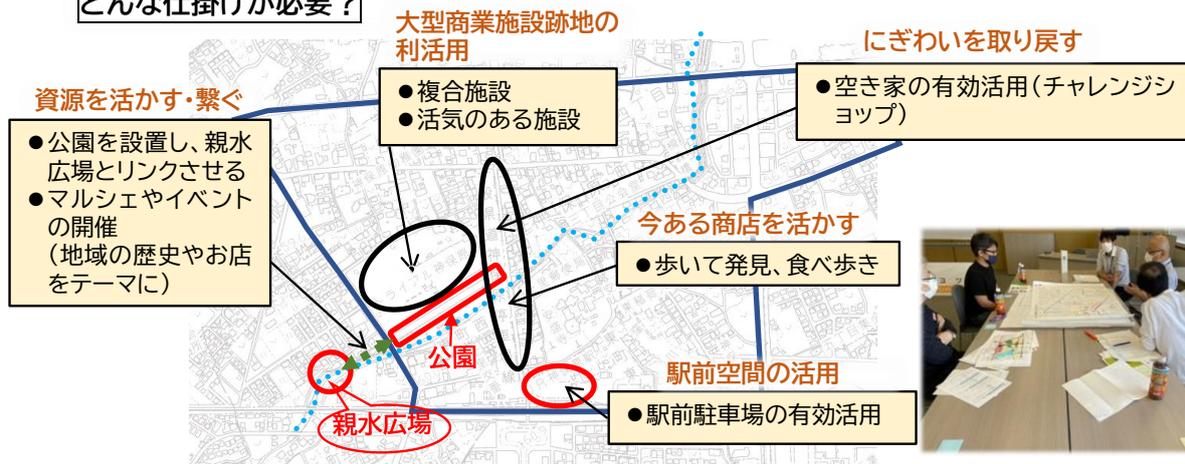
今住む町民が住みやすく、過去を伝承し、町外の人にも興味を持てる街

町民の方々に満足していただくためには「まちの魅力を知ってもらう」ことが必要と考え、今あるお店や歴史を知ってもらい、歩いて楽しめるしかけとして、マルシェやイベントの実施を提案しました。また、「まちの魅力を増やす」ことも必要と考え、公園・緑地の整備などを提案しました。

誰を対象に？

- ◆町内に住んでいる人
- ◆現在駅周辺に住んでいる人
- ◆子供から大人までの全世代の方

どんな仕掛けが必要？



3) C 班

「毎日歩きたい、生活の一部となる場所『こむぎっちプラザ』』としてまちづくりのテーマを設定しました。

平日・休日含め、毎日行きたくなるような場所とするためのしかけとして、日用品を取り扱うマルシェやスポーツができる広場の整備が発案されました。また、来訪者の受け皿として、駐車場の立地や駅機能の改善などの意見が挙がりました。

大型商業施設跡地を上里町にしかない場所づくりやイベントができる場所づくりをすることで、目的地となる場所にするとの意見が挙がりました。

また、喫茶店等でも商いが成立し、沿道を含めて活性化し賑わいを保てるように、駅近でマルシェの開催や、樹木や花が楽しめる、スポーツができる公園や川遊びができる場所を創出する必要があるとの意見が挙がりました。

道路を繋げて駅南北を行き来しやすくすることや、駐車場の立地など交通環境を改善することにより、人の流れを生み出すことが必要との意見が挙がりました。



C 班の様子

C 班

まちづくりのテーマ

毎日行きたい、生活の一部となる場所『こむぎっちプラザ』

毎日(平日・休日含め)行きたくなるような場所とするためのしかけとして、日用品を取り扱うマルシェやスポーツができる広場の整備を発案しました。また、来訪者の受け皿として、駐車場の立地や駅機能の改善を発案しました。

誰を対象に?

- ◆町内に住んでいる人
- ◆町外から訪れる人
- ◆家族
- ◆駅の南側に住んでいる人

どんなしかけが必要?

大型商業施設跡地を目的地となる場所に

- 上里町にしかない場所づくり
- イベントができる場所づくり
- 学習スペースの整備

駅近を楽しく

- 駅近でマルシェの開催
→沿道を含めて活性化

賑わいを保つ

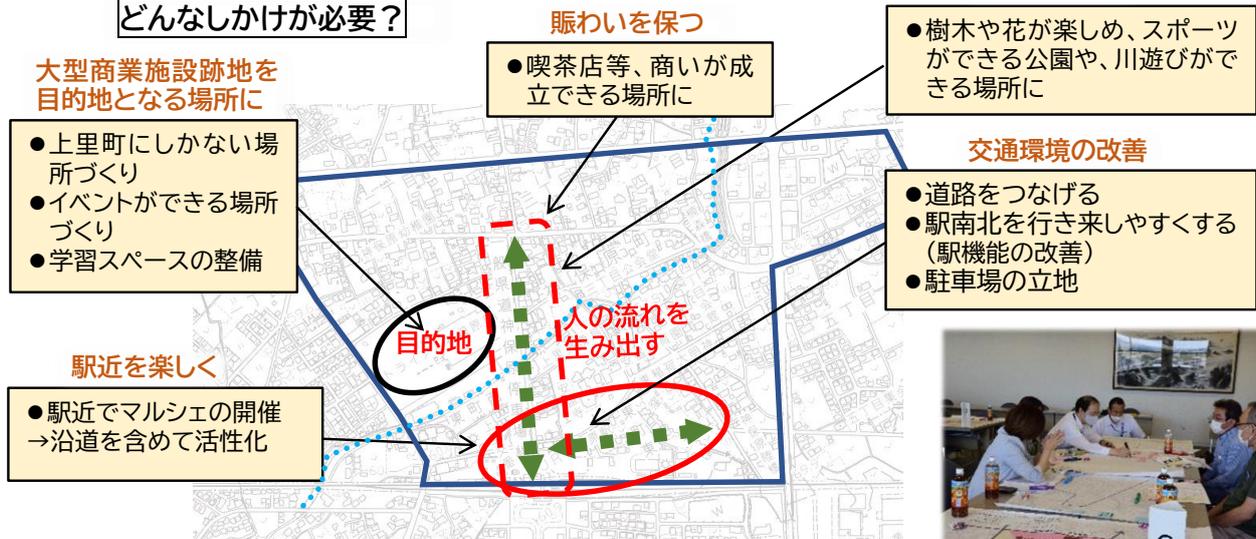
- 喫茶店等、商いが成立できる場所に

まちを楽しく

- 樹木や花が楽しめる、スポーツができる公園や、川遊びができる場所に

交通環境の改善

- 道路をつなげる
- 駅南北を行き来しやすくする(駅機能の改善)
- 駐車場の立地



4) D 班

「交流が生まれるまち×くつろぎを感じるまち」としてまちづくりのテーマを設定しました。

交流を生み出すしかけとして、休憩やワークショップができる広い公園や、町の木々や花を道路沿いに植えることでくつろげる空間の整備が必要との意見が挙がりました。また、街灯をカラフルにするなど、見映えを意識した意見も挙がりました。

カフェや雑貨屋などのおしゃれなお店やカフェと図書館が融合したような施設、休憩・ワークショップができる広い公園を設置することにより、交流が生まれ、くつろぎを感じる空間が生まれるとの意見が挙がりました。

また、スーパーマーケットやコンビニエンスストアが駅前にあると駅を利用している学生や社会人の方たちに便利で賑わいをもたらすことに加えて、広場や駅をバリアフリー化にすることによって、高齢者の方や体の不自由な方でも利用しやすくなるとの意見が挙がりました。

更に、町の木々や花を道路沿いに植えることやカラフルな街灯、アートベンチのように町のキャラクターや花をモチーフに描かれたベンチの設置など、上里町独自の手法でまちなかをおしゃれにしていきたいとの意見が挙がりました。



D 班の様子

D 班

まちづくりのテーマ

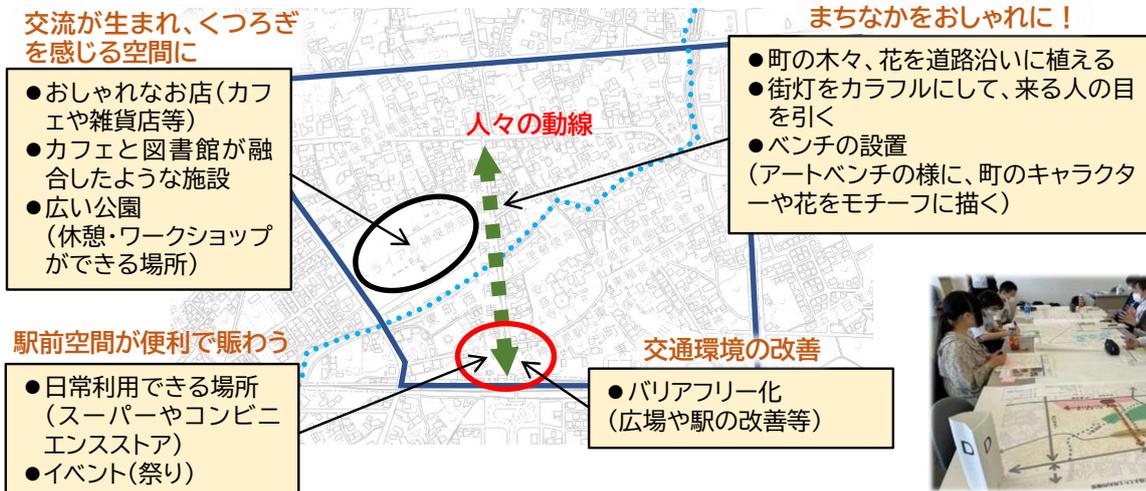
交流が生まれるまち×くつろぎを感じるまち

交流を生み出すためのしかけとして、休憩やワークショップができる広い公園や、町の木々や花を道路沿いに植えることでくつろげる空間の整備などを発案しました。また、街灯をカラフルにするなど、見映えを意識した発案もありました。

誰を対象に？

- ◆上里町に住んでいる人
- ◆高齢者の方や、体の不自由な方
- ◆子育て家族(親子)
- ◆他の地域や他の県から訪れる人
- ◆駅を毎日利用している学生・社会人

どんなしかけが必要？



5) E 班

「みんなが利用したくなる、歩きたくなる場所～ゆったり・のんびり、わくわく、安全安心～」としてまちづくりのテーマを設定しました。

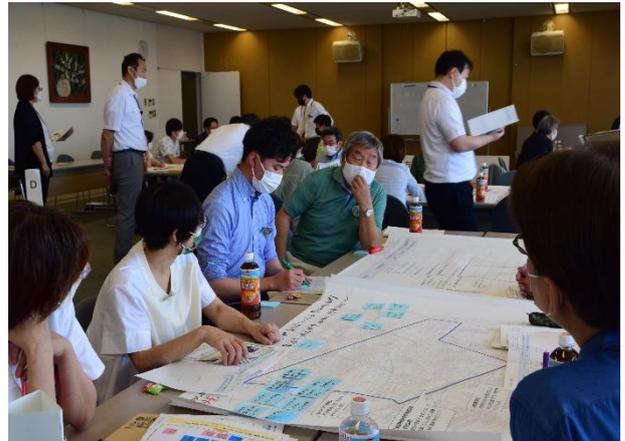
今の駅周辺の落ち着いた雰囲気やお寺・御陣場川などの資源を活かした空間づくりや、町の魅力発信をしていくためのしかけとして、歴史を活かしたカフェなどの立地について意見が挙がりました。

大型商業施設跡地をマンションや訪問看護ステーション、町民の個性や特技を活かして交流を生み出す施設、歴史を活かしたカフェ等を配置するとともに、キッチンカーやマルシェを開催し、楽しく人との交流溢れる空間を創出することが必要との意見が挙がりました。

上里町の過ごし方マップや健康アプリを活用し、まちを歩くように促す仕掛けなどの意見も挙がりました。

また、駅南北の行き来の改善や、駅の入口・エキナカにデジタルサイネージを設けることで、昆沙土の歴史、御陣場川、牧場、ホテルの里などのまちの魅力を発信することにより、人の流れを駅周辺だけでなく、町全体に広げていきたいとの意見が挙がりました。

また、「まちづくりについて話し合う場を継続していきたい」という意見も挙げられました。



E 班の様子

E 班

まちづくりのテーマ

みんなが利用したくなる、歩きたくなる場所 ～ゆったり・のんびり、わくわく、安全安心～

駅周辺の良い所(落ち着いた雰囲気、お寺・御陣場川などの資源)を活かした空間づくりや町の魅力発信をしていくためのしかけとして、歴史を活かしたカフェなどの立地について発案しました。また、「まちづくりについて話し合う場を継続していきたい」という意見もありました。

誰を対象に？

- ❖ 町内に住んでいる人
- ❖ 若い人たち
- ❖ 交通弱者や障がいのある方
- ❖ 駅周辺に住んでいる人
- ❖ 幼い子供や、学生、高齢者の方
- ❖ 歩行者

どんなしかけが必要？

